

税の正義とグローバル・タックス

伊藤恭彦（名古屋市立大学）

1. はじめに：問題関心

2. タックス・ジャスティス

（1）政府と税

- ・ 税額：政府が行う活動によって変動
- ・ 市場の結果を政府は税の徴収方法と徴収額、さらには政府支出によって変化させる
→税を考えることは、政府を通して市場の結果をどのように変えるのかを考えること
課税の公正はその中の一構成要素にすぎない
- 政府活動＝税による活動を決めるためには社会目標、理想的社会構想が必要
- *課税の公正は社会目標のもとにある社会正義の一下位規範（Murphy and Nagel 2002）

（2）市場社会の2つの顔

- ①利己的な活動の結合→「公益」の実現
- ②利己的な活動の結合→「公共悪」の産出
→必ず行う政府活動は「公共悪」（特に根深い公共悪）の除去

（3）回避すべき公共悪＝人間の尊厳の損傷

- ・ 市場社会のトレンド＝財・サービスのみならず人間に有用なものを商品化
- ・ 人間の尊厳の損傷：「人間の物件化」（カント）が市場では不可避免的に誕生
- 政府活動の根本：人間の尊厳の実現あるいは人間の尊厳損傷の回避
- 税の正義が問われるポイント

（4）税とは

- ・ 市場社会で暮らす私たちは市場で起こりやすい人間の尊厳損傷を回避・除去するために全員の約束事で政府をつくる（社会契約論的発想）
- ・ 税はその契約を実行するための資金（R.Murphy 2015）
- ・ 課税も人間の尊厳損傷を回避・除去する方向で行われる

（5）人間の尊厳損傷を回避するための税

- ①市場社会に形成される尊厳損傷構造＝極端な格差の矯正（Rawls 2002）（Bird-Pollan 2013）
- ②弱者への力の賦与

③バッド増税・グッド減税

3. タックス・インジャスティス

(1) パナマ文書、パラダイス文書

- ・グローバル化で拡大する「租税回避」、タックスヘイブン
- ・租税回避：課税要件の充足を回避する行為であり、そのやり方が租税法規が予定していない異常な法形式を用いる

(2) 租税回避は倫理的には「黒」

①フェアプレー義務：政府＝税は尊厳損傷を回避するための共同の営み

- 全員が共同の営みに参加することで全員が尊厳回避という利益を得る
- フリーライダーは負担の軽減を図ることで実は人格間の共同の営み＝他者尊重を破壊

②人間の尊厳破壊構造から利益を得る

- 人間の尊厳損傷を回避する仕組み（税＝政府）に関与し応分負担することで市場から利益を得る
- 人間損傷構造回避に必要な負担部分まで自己利益＝損傷構造から利益＝他者蹂躪

4. グローバル・タックスへ

(1) 地球規模の貧困と慈善の限界

- ・グローバルな規模での人間の尊厳損傷が継続
- ・慈善活動の重要性と同時に地球規模の構造改革→その手段としての税

(2) グローバル・タックスとグローバル・ガバナンス

- ・航空券税→ユニット・エイド、グローバル・ファンド、そして健康影響基金
- ・人間の尊厳損傷回避のためのガバナンス構築（ささやかだが）

(3) グローバル・タックスの意義

- ・グローバルな人間の損傷構造の改革
- ・国内税のグローバルな拡張ではない
 - 人間の尊厳損傷を回避するという発想から税を構築
 - 国内税を含め人間の尊厳に資する税制を再考する出発点

5. おわりに

- ・法的不正のみならず、不正義を許さない確固としたグローバルな世論形成
- ・私たちの相互の約束としての税、共同事業としての税→不正を捕捉する GT

